

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491番地2		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成28年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JizyosyoCd=2193300015-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①飛騨特産物(山菜、山中和紙)等との触れ合い、関わり合う事を、日々の生活に活かし、穏やかに1日過ぎて頂けるよう支援します</p> <p>②自然豊かなこの地で、四季折々の楽しみを見つけ、自然と共存し、地域との交わりを持つ生活を支援していきます</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>廃校となった小学校を改修した事業所は、運動場跡があり、懐かしレトロな雰囲気がある。四季折々の自然の恵みの中、利用者は、地域住民と日々関わりながら、穏やかに暮らしている。掃除、洗濯など個々に出来る事を当たり前手伝い、自分たちで育てた野菜や近隣からの差し入れ野菜を使って、皆で食事の用意をし、食卓を囲んでいる。美味しい食事と職員の飛騨弁は、利用者の安心感と笑顔に繋がっている。職員は、朝と夕に利用者の体を拭きながら、常に健康状態を確認している。飛騨の豊かな森の恵みと共に、寒い冬をたくましく生き抜いた人達が、このホームで楽しく余生を過ごす事ができるように、支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は「楽しく余生を過ごしたい」という理念の基に、住み慣れた家で生活しているように家庭的なホーム作りを目指している	職員は、理念の意義を常に話し合い、家庭的なホーム作りに努めている。住み慣れた自然豊かな地域の中で、個々の持てる力を活かしながら、普通の暮らしを楽しみ、穏やかで心豊かな毎日が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会し、出来る限り参加できるよう努めている。地域の運動会に参加し、散歩、寺参り等の外出時には近隣の人々と会話を楽しんでいる	事業所は、自治会員として、防災訓練や各種行事に参加している。小学校の遊戯会を事業所で行ない、地域住民を招待している。ボランティアや警察官の巡回、近隣住民からの野菜の差し入れなどがあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や御家族の方がホームに来所された際には認知症を理解して頂けるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議には、行政、民生委員、地域担当の警察官の方には、常時参加して頂き、意見交換や現状の説明などを聞きサービス向上に活かしている	定例の運営推進会議では、事業所の行事や利用者の状況などを報告し、意見を交わしている。警察官による交通事故防止対策についての説明を受けたり、利用者の健康維持対策について話し合っている。そこでの意見を職員で検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修、交流会には積極的に参加し、事業所が開催する推進会議にも参加して頂き、連携体制の足掛かりとしている	市主催の研修会や会議には積極的に参加し、運営に反映させている。困難事例や法改正で分からない事は、その都度、相談・助言を得ている。市主催の「ポイント付きボランティア制度」の受け入れ体制を整え、活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、拘束しないケアを実施している。一人ひとりの思いを聞き出来るだけ叶えるようにしている	職員は身体拘束について、定期的に学んでいる。昼間は玄関を開放し、自由な行動を見守っている。問題があれば、その都度職員で工夫し、拘束ゼロを実践している。呼び名や方言が、利用者のプライドを損ねていないかを常に確認し、対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、内部研修を行い、言葉使いや、支援の仕方には注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の講習会には職員が参加し、施設内で行っている内部研修に役立っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部料金改正等の変更がある時には、利用者の御家族に説明を行い再契約確認をしている。また、新規契約時には十分説明を行い、職員2名立会いの席で行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議、家族会、家族の訪問時等に、意見・要望を聞き、入居者様、御家族の思いを大切にし、ケアに活かせるよう努めている	運営推進会議や家族の面会時等に、また、電話などでも意見や要望を聴いている。家族会のアンケートでは、現状を維持し、できるだけ長くホームで過ごしてほしいとの意見が多く、職員は、家族の思いを共有し、運営やサービスに反映させている。	家族に毎月郵送する便りに、家族の意見や要望が記入できる欄を設け、返信してもらうなどの工夫で、更に家族との親密度が高まる事に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月例ミーティング、モニタリング等で、職員の思い意見を聞いて代表に伝えている	管理者は、毎月の職員会議で、職員の意見・要望を聴く機会を設けている。トイレの改修や危険防止用のセンサーの取り付けなどの提案を、速やかに改善している。勤務時間の調整は、職員に任せられるなど、意見や要望が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングを行い、職員の思い意見等を週1回訪問する経理担当者にも伝え話し合う場を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを目指し、勉強会、研修への参加を積極的に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、グループホーム協議会が開催するケアマネ会議への参加など同業者と交流する機会を作りサービスの質を上げるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談者の不安や困惑でいっぱい的心情を理解し、思いをしっかり聞き留め、安心感を得て頂けるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安や心情を理解し、家族の抱えている不安を軽減して頂けるような支援を行えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族がその時に必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にも役割を持ち活動に参加して頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を理解し、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、訪問者が来所された時は自宅でお出迎えする様なお茶だしの対応や声掛けを行い、訪問して頂き安い環境づくりに努めている	家族や親戚と共に一時帰宅し、馴染みの店での買い物や食事に出かけている。出張訪問の理髪師、JA移動販売の人、巡回警察官とも馴染みであり、本人の宗教仲間の毎週の訪問もある。また、職員と共に馴染みの店や場所にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し、それぞれに役割を持っていただき、共に支えあえる事が出来るような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活に笑顔で寄り添い、安心して思いを伝えて頂ける信頼関係を築き、利用者の言動や表情から思いを把握している。こだわりのある人にも職員間で情報を共有しその方の思う暮らし方が出来るように努めている。	職員は、事前に利用者の基本情報や生活歴を把握している。日々の暮らしの中では、故郷の思い出話や生き立ちを聴きながら、思いの把握に努めている。個々の価値観や思いを尊重し、その人らしい暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、本人の在宅のケアマネさんと、故郷の話や生き立ち、趣味の話など、雑談しながら色々な話を聞かせて頂き、価値観を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間ごとの担当者が状態を日課表に書き残し、次の担当者がその日の状態を把握して、途切れる事の無い支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや課題整理総括表で本人の状態を職員で把握し、家族と話し合いながら、身体機能を維持し、思う暮らしが出来るよう介護計画を作成している。	日頃から聴いている利用者の思いや、家族の意向が反映された介護計画を作成している。利用者が健康を維持し、残存機能を活かしながら安心して楽しく暮らせるように、皆でアイデアを出し合い、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の「日課表」を毎日午前・午後・夜間と記録し、職員間で情報を共有して、どの職員が対応してもその日に合った同じような支援が出来るよう実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、その時々生まれるニーズに柔軟に対応するよう取り組んでいる。また、一人ひとりのしたい事(畑仕事・散歩・体操等)希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる祭りや運動会などへの参加や、市で行われている「介護サポーター制度」の受け入れを行い地元と共に暮らしを楽しむ支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望されるかかりつけ医に情報を提供し、適切な受診が受けられるよう支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医を継続し、協力医受診は、職員が対応している。かかりつけ医や専門医への受診は、家族対応を基本としているが、家族の都合や緊急時には、職員が対応し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師としての配置は無いが、医療は月1回のかかりつけ医の定期受診、各提携医療機関、相談窓口等に問い合わせをし、早急に対処出来るよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、御家族と常に情報交換に努め、病院の地域連携室、相談窓口を活用し、支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、入居時に事業所でできる事を十分説明し、方針を共有して頂き、地域の関係者と共に支援に取り組んでいる	重度化・終末期対応は、ホームで日常生活を送れる限界までとし、契約時に説明をしている。重度化や日常生活が困難になった時点で、家族、医師、関係機関で話し合い、他の施設への移転を含め、最善の選択ができるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを基に、全ての職員が応急手当や初期対応が出来るよう消防署の訓練を受たり、勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、通報訓練、避難訓練、地震に対する対処を訓練し、地域との協力体制も築いている。行政主体の防災訓練にも参加している	災害訓練は、消防署の協力の下、初期消火、避難誘導など、夜間も含めた訓練を実施し、備蓄も確保している。隣接する体育館には、行政管理の避難用具や必需品があるが、使われていない。地域住民や行政との協力関係が課題となっている。	課題となっている件については、運営推進会議で提案する事が望ましい。相互協力の一環として、行政を含め、地域参加型の防災訓練が行われる事に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりできる事、できない事を理解し、職員も共通の認識を持って支援している	職員は、個々の生活歴やこだわりにも配慮し、その人らしさや自己決定を尊重して対応している。入浴や排泄は、個々のできること、できないことを見極め、自尊心を傷つけない対応と、言葉かけに配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントを行い、本人の思いを引き出せるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の決まり事、スケジュールに当てはめるのではなく、一人ひとりの暮らしに合った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を、家族とともに準備し、御本人の好み、こだわりに沿って支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で野菜を育て、四季折々の食材で楽しみを持っている。また、青空食堂と称して食分転換・食欲増進を目指す屋外活動も行っている	自分たちで育てた野菜や、職員・近所からの差し入れの旬の野菜を使い、利用者も一緒になって、調理や配膳を手伝っている。職員も同じ物を食べながら、旬の食材を話題に話も弾み、体重を気にしながらも、完食できる喜びを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量を把握し、体重管理を行い、栄養状況の目安にしている。特に夏場の水分補給にも注意を心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりに応じた声掛け、見守りを行っている。洗面具の消毒、義歯の洗浄も日を決めて実施している		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合わせ、排泄リズムを把握し、トイレ誘導する事を職員間で意識付けし、自立を支援している	個々の排泄パターンを把握し、尿意のない人もさりげなくトイレに誘導し、失敗を減らしている。夜間も、個々に声かけをし、トイレでの排泄を促している。排泄用品は、個々の状態に合わせて工夫し、自立の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況、水分摂取回数を把握し、食事内容の工夫、体操等、入居者様にも意識付け出来るよう支援予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行い、利用者の健康状態に合わせて入浴介助を行っている	入浴は、週2回を基本としているが、汚染があれば、その都度シャワーで対応している。野で摘んだよもぎや菖蒲を広い浴槽に浮かべ、相性の合った人との入浴や、一人でのんびりと入浴する人など、個々の希望に合わせ、ゆったりと楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を調整し、シーツ・パジャマの清潔を保ち、気持ちよく安眠して頂けるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の誤薬が無いように名前、用法、日付けには間違いの無いよう確認して、配薬し介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の片付け、料理の下準備等、役割を持ち、個々の意欲を引き出し、1年に3~4回外出し食事会を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣周辺の散歩には、お一人おひとりの体調、天候、希望に沿って行っている。また、年間計画を立てて、回転すし、運動会見学、バラ園散策など四季折々に行っている	自分たちで育てた野菜や花を眺めながら、ホーム前の広場を散歩したり、ベンチに腰かけ、ゆっくりと外気浴が日課になっている。職員が連れ添って、近くの神社を参拝したり、買い物に出かけている。家族の協力で、墓参りや外食に出かける人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様それぞれの諸事情を考慮し、外出の際は家族の同意のもとに使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各家庭の状況を考慮しながら、御本人の意思を尊重し、御家族、兄弟、姉妹と電話をかけたり、手紙のやり取りが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には、分かりやすいように、絵、文字で提示し混乱を防ぐように工夫している。季節感を出すために季節行事の写真を何時でも、誰でも見られるようにしている	広い共用の場所には、野の花や月見を題材にしたちぎり絵の作品や、廃材を利用した手づくり壁掛けに利用者の笑顔の写真を飾っている。長い廊下はリハビリに役立っている。大きなソファや畳のコーナー、離れた場所にも椅子を用意し、それぞれの場所でゆったりとくつろげる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所(ホール)では気兼ねなく集まり集える場所作りを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に注意を払い、使い慣れた小物、慣れたしんだ洋服などを持参して頂き、本人が落ち着いて過ごせる様努めている	部屋の入り口には、個々に工夫された表札がかかっている。使い慣れた鏡台や家具類を好みに配置し、思い出の写真や作品を飾っている。窓から広がる自然の景色を眺めながら、季節の移り変わりを感じることができ、落ち着いて過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守り、声掛け、目から指示(掲示物、写真、絵)などで安全に自分でできる事を見守り、自立支援に努めている		